

# 板紙・段ボール新聞

(昭和35年12月7日、第三種郵便物認可)

毎月7日、17日、27日発行

第二八〇二号

(11011年)

3年4月27日

## ISOWA創立100周年記念誌

表紙の鮮やかISO WAブルーと、銀で箔押しされた力強く美しいタイトルの文字がまじり目に飛び込んできた。ISOWAが創立100周年を記念して発刊した『世界の段ボールビトを幸せに』である。

それにしても特異だ。仕事柄、少なからず社史を手取る機会があるが、A5判とは、単行本よりも一回り大きいこのサイズ。ひも解くうちに、勝手な想像が広がる。あえて言えば本棚に鎮座することを望んでいない、熟読されることを求めていると。100年、特に風土改革を進めてきた過去20年間を飾ることなく、露にしている

点は、読み応えがあり、

ユーザーに留まらず、今一度同社を深く知ることにつながるはずだ。まして従業員の方々にとっては、次の100年への歩みを進める中で、繰り返し開き、時に線を引き、時

に付箋を付けるかもしれない。もしかしたら、時がたてば、使い込まれた辞書のようにポロポロになることもあるかもしれないなどと思いが膨らむ。300頁を超える大

書で、数多くの写真が掲載されているが、驚くことに機械メーカーの社史ではあっても、機械が丸々写った写真が1枚しかない。ほとんどが人物である。その1枚1枚には、磯輪英之社長らによる、写っている人や状況に対するエトキが躍る。もちろん、同社は優秀な

ヨンや立場であったり、と多層的に展開される。これらエピソードは是非、何らかの形で多くの人に、それぞれの目線から読んでもらいたいと思うが、決して、きれいごとだけでなく、まして単純な成功物語でもない。そこには達成の高揚感と同じくらい、うまく行かずどうすれば理想に近づけるかと悪戦苦闘する社長以下、役員、ベテラン、若手問わず、多くの社員の姿が描かれている。そして安易な結論が記されてはいない。

### 『世界の段ボールビトを幸せに』

### 風土改革、その軌跡に迫る

株式会社 ISOWA 創立百周年記念誌

# 世界の段ボールビトを幸せに

1920-2020 ISOWA

ISOWAブルーに銀の箔押しが映える

機械を長年に亘り提供して、業界に多大なる貢献をしてきたことは言を俟たないが、やはり人、ISOWAビトの歩みがあったの大きな区切りとの思いが強くと伝わってくる。

本書は主に、風土改革に至る契機、その取り組みについて、時系列であったり、セクシ

またまだ進行形で次の100年に向けて進んでいるのだから。ただ、そんな風に歩みを止めないISOWAビトの姿こそ、『世界一社風のいい会社をつくらう』という目標そのものを体現していると感じた。

(浮)